



一般家庭のバリアフリーに対する 市の支援について

創志会 藤澤 菊枝



高齢者対策について

創志会 久保田 英賢

問 階段や段差など身近な場所に大きなハードルを感じている方は、障がいのある方、高齢の方、子育て中の方など、さまざまな立場の方に共通すると思います。

答 **（保健福祉部長）**：高齢者の場合、介護保険制度の住宅改修費の支援があります。これは、要支援または要介護に認定された方が対象で、手すりやスロープの設置に対し、上限額20万円として支給するものです。

障がい者の場合、身体障害者手帳1、2級の肢体不自由または視覚障がい、IQ35以下の判定を受けた方などが対象の制度があり、助成額の上限は80万円となります。どちらの制度も、自宅をバリアフリー化することで、本人ができるだけ自力で生活できることを支援するほか、介

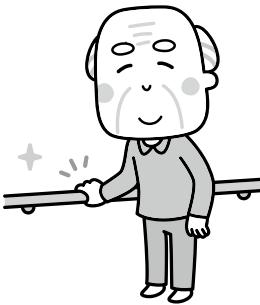
護者の負担軽減も目的としています

日常生活で支援が必要な状況になつても、諦もかその人らしく安全・安心に暮らすことができるよう、きめ細かい視点で一般家庭のバリアフリー化を支援してまいります。

問題 障害者手帳があります。介護保険の対象となる方の制度の利用はどのようにになりますか。

答（保健福祉部長）：障がい者が65歳以上となった場合、介護保険制度の利用が優先されます。まず介護保険からの給付を受けていただき、さらに自己負担があつた場合に、障がいの助成を受けていた

その他の質問



農政における市内県農業系教育機関との連携について



インフルエンザ対策について

太平会 山口 良樹

階段や段差など身近な場所に大きなハードルを感じて いる方は、障がいのある方、高齢の方、子育て中の方など さまざまな立場の方に共通すると思います。

自宅など身近な生活の場において、バリアフリーのため

問 平成31年度予算では、高齢者に対してさらなるサービス充実のため、どのような施策を考えているのか伺います。
答 **(保健福祉部次長)**：認知症初期集中支援チームや高齢者あんしん補償事業などの認知症対策と、介護状態にならないよう介護予防事業の推進を図つてまいります。地域とともに支え合い、生きがいを持つて安心して生活ができるよう生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、各相談窓口などの関係機関と連携を強化し、高齢者支援の推進を図つてまいります。

問 認知症に関しては早期の発見が重要であります。認知症になる恐れがある人に対しての、早期発見の取り組みについて見解を伺います。

答 **（保健福祉部次長）**：認知症ケアパスを活用しながら本
人や家族を支援しているほか、市役所1階の未病センターへ

にある、記憶力、探索能力、ストレスチェックといった瞬年齢の測定などができる機械が自由に使えますので、一つの目安として活用いただければと考えています。

知症予防協会のウェブ上に認知症自己診断テストなどがあります。市が行う特定健診の中に含めたり、敬老の集い、サロンや末病センターなどこれらを活用することについ、見解を伺います。

答 て
見解を伺します

と考えます。未病センターに来た方をどのようにフォローしていくかが大きな課題であり、その中に含めて内容などの充実や今後の方向性を見いだしていきたいと思います。

・市内交通網の現状と今後の整備について
・図書館周辺の文化ゾーンの考え方について

その他の質問

・市職員の定年引き上げと給与水準の設定について